

Q BCP（事業継続計画）とは何ですか？

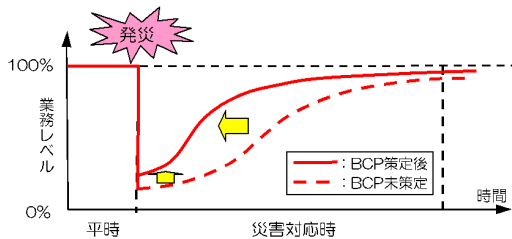
A

1. BCP とは

BCP（事業継続計画）とは、事業の継続に影響を与える事態が発生した場合においても、許容限界以上のレベルで事業を継続させ、許容期間内に業務レベルを復旧させることを目的に策定する計画のことです（図-1）。

BCPが機能することにより、水道では、発災時に断水が生じない、または、断水しても断水戸数を少なく抑え、かつ、発災後から通常給水へ戻るまでの時間を短くする効果が期待できます。

なお、BCPでは、事業継続に必要な経営資源が不足する状況を想定することが、従来の防災計画や危機管理計画との違いと考えられます。



2. BCPに関連するガイドライン等

BCPに関連する主なガイドラインやマニュアルとしては、表1に示すものが公表されています。

表-1 主なBCP（事業継続計画）などの公表資料

公表元	資料名
内閣府	事業継続ガイドライン
経済産業省	事業継続計画策定ガイドライン
国土交通省	下水道BCP策定マニュアル（地震編）
厚生労働省	事業者・職場における新型インフルエンザ対策ガイドライン

3. BCPの策定

(1) 策定手順と対象リスク

一般には、事業影響分析、リスク分析を行い、事業に著しいダメージを与えかねない重大被害のシナリオを想定し、その状況下にて、抽出した重要業務を目標復旧時間で復旧するための対応策、行動手順などを作成します。

対象リスクとしては、地震等の自然災害、パンデミック、事故、テロなど様々なものが考えられますが、我が国の場合は、地震等の自然災害が主な対象として多く扱われる特徴があります。

(2) 地震に対する水道事業のBCPの要点

新規にBCPを策定するというよりは、既存の非常時対応のための計画やマニュアルに、BCPの要素を追加することが、効率的です。

① 被害シナリオの想定

BCPの前提となる「重大被害のシナリオ」は、地域防災計画や地震被害想定などをもとに作成することになります。BCP策定にあたり、計画策定者は、発災時における下記の内容を明確にしておく必要があります。

- ・施設被害状況（被害の有無・大小、被害箇所）
- ・施設被害に伴う供給能力への影響
- ・被害想定（断水規模、復旧が必要な箇所等）
- ・水道事業者内部の資源（人員、資材、機材等）
- ・水道事業者外部の資源（電力、燃料、薬品等）

② 目標復旧時間の設定

地域防災計画や地震被害想定などの目標値をもとにするか、新規に水道事業者が設定します。

③ BCPの策定

被害想定に対し、限られた資源で給水を継続しつつ、目標復旧時間で復旧するために、必要な対応策、行動手順を作成します。また、発災後の行動のみならず、施設の耐震化の推進など、予防的に取り組む事項についても計画します。

4. BCPとBCM

BCPを策定・運用・訓練・継続的改善する取り組みをBCM（事業継続マネジメント）といいます。BCPの周知・教育が不十分である場合や、計画と現状に乖離が生じた場合、訓練を通して明らかになった課題等がある等、事業継続の障害となる要因がある場合には、BCPの効果が十分に発揮できないことが考えられます。

そのため、PDCAサイクルにより定期的に維持改善を行う運用体制を、責任者・担当者の役割を明確にし、構築する必要があります。

（出典：水道技術ジャーナル 2011年10月）

（参考文献）

- 1) 国土交通省都市・地域整備局下水道部「下水道BCP策定マニュアル（地震編）」（2009）P 3